

レトロと
ロマンを
感じる

名古屋お屋敷めぐり

4館スタンプラリー

文化のみち二葉館・文化のみち榎木館・旧豊田佐助邸・揚輝荘 聴松閣の4館は、大正から昭和初期に建てられた名古屋を代表するお屋敷です。いずれも和洋折衷で、それぞれが隅々までこだわったデザインと贅沢な資材を使って建てられた、レトロでロマンを感じさせる建物です。この4館に入館してスタンプを集めたお客様にプレゼントをご用意しました。早春のお屋敷めぐりで、プチ時間旅行を楽しんでみてはいかがでしょうか。

開催期間 平成29年3月8日(水)～3月26日(日) **休館日** 各館とも 月曜日 (祝日の場合は翌平日)

※景品がなくなり次第終了

主催:文化のみち二葉館 文化のみち榎木館 旧豊田佐助邸 揚輝荘

文化のみち二葉館

【名古屋市旧川上貞奴邸】



ひときわ目立つオレンジ色の洋風屋根、ステンドグラスの光がこぼれる大広間、そして落ち着いた伝統的な和室—東洋と西洋の文化が溶け合った大正ロマンの香り高い館は、日本初の女優と謳われた川上貞奴と、電力王と称された福沢桃介が、大正から昭和初期にかけて暮らしていた邸宅を移築・復元し、貞奴と桃介の関連資料を展示するとともに、郷土ゆかりの文学資料の保存・展示を行っています。

- ◆名古屋市中区榎木町3-23
- ◆TEL/052-936-3836
- ◆入館料/一般200円
- ◆開館時間/10:00～17:00
- ◆URL <http://www.futabakan.jp/>

なごや観光ルートバスメーグル
「文化のみち二葉館」
市バス「飯田町」北に徒歩2分
基幹バス2号「白壁」南に徒歩5分
地下鉄桜通線「高岳」2番出口より北に徒歩10分



文化のみち榎木館



文化のみち榎木館は陶磁器貿易商、井元為三郎によって建てられました。その館は、都会のけん騒を忘れさせるよう静かに佇み、大正末から連なる記憶を今へ伝えていきます。ステンドグラスの色鮮やかな光に満たされた洋館、懐かしい薫りにあふれる和館、四季折々の趣が時を忘れさせる庭園、それら全てが皆様のご来館をお待ちしております。

- ◆名古屋市中区榎木町2-18
- ◆TEL/052-939-2850
- ◆入館料/一般200円
- ◆開館時間/10:00～17:00
- ◆URL <http://www.shumokukan.city.nagoya.jp>

なごや観光ルートバスメーグル
「文化のみち二葉館」西に徒歩3分
市バス「東片端」北に徒歩3分
基幹バス2号「清水口」南に徒歩5分
地下鉄桜通線「高岳」1番出口より北へ徒歩10分



旧豊田佐助邸



旧豊田佐助邸は、秀明王・豊田佐吉の弟で佐吉を支えた実業家の豊田佐助が住んでいた邸宅です。白いタイル張りの洋館と広い間取りの和館で構成されており、洋館の1階では蓮の蕾の形をした照明や鶴亀に「とよだ」の文字をデザインした換気口などが当時の雰囲気を与えています。

- ◆名古屋市中区主税町3丁目8番地
- ◆問合せ先/名古屋歴史まちづくり推進室
052-972-2780
名古屋まちづくり公社
052-222-2314

- ◆入館料/無料
- ◆開館時間/10:00～15:30
- ◆URL <http://www.nagoya-rekimachinet.jp/contents01/special02.html>
<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-2-5-4-0-0-0-0-0.html>

市バス「清水口」、「白壁」より南へ徒歩5分
地下鉄桜通線「高岳」1番出口より北へ徒歩15分



※旧豊田佐助邸では景品交換ができませんので、恐れ入りますが他の3館にてお願いします。

揚輝荘 聴松閣(南園)



揚輝荘は、大正から昭和初期にかけて(株)松坂屋の初代社長15代伊藤次郎左衛門祐民によって構築された別荘です。南園に位置する聴松閣は、ハーフチンバーの外壁など山荘風の外観をした迎賓館で、昭和12年に建築されました。地下1階～地上3階の各室は各国様式がミックスされており、地階は全体がインド様式です。また、北園は入園無料ですのでぜひ足を運んでみてください。

- ◆名古屋市中区千種区法王町2-5-17
- ◆TEL/052-759-4450
- ◆入館料/一般300円
- ◆開館時間/9:30～16:30
- ◆URL <http://www.yokiso.jp>

地下鉄東山線「覚王山」1番出口より北に徒歩10分

※揚輝荘北園には今回のスタンプの設置はありません。

